

あなたの家を思う熱意が

ヨハネ 2 : 13 - 22



司祭 ヨハネ 井田 泉

2015年3月8日

大齋節第3主日

奈良基督教会にて

「ユダヤ人の過越祭が近づいたので、イエスはエルサレムへ上って行かれた。」ヨハネ 2:13

主イエスは何のためにエルサレムに行かれたのでしょうか。それは祈るため、礼拝するためです。

エルサレムの神殿は神の家と呼ばれてきました。神殿の最も奥まったところ（至聖所）には、神ご自身が具体的に現実的におられると信じられていました。神の家は人々の生活と信仰の拠り所です。

エルサレム巡礼についてこんな歌があります。

【都に上る歌。ダビデの詩。】

主の家に行こう、と人々が言ったとき

わたしはうれしかった。」詩編 122:1

神の家に行くことは喜び。主を礼拝することは幸せ。

わたしたちの教会、この礼拝堂もこうありたいと願います。

このエルサレムの神殿には、イエスは子どものときから毎年来られていました。過越祭——遠い昔、イスラエルの先祖がエジプトでの奴隷状態から解放されたことを記念する祭り——の折です。祭りの中心は礼拝です。

主イエスが 12 歳の過越祭のときも、ナザレの村の人たちと一緒にこの神殿に来られました。帰り道、両親はイエスがいないことに気づき、非常に心配してエルサレムに引き返して探し回ったところ、イエスはこの神殿の境内で聖書の学者たちと語り

合っていました。母マリアが「どうしてこんなことをして心配させたのか」と言うと、イエスは、「僕が自分のお父さんのところにいるのは当たり前なのに分からなかった？」と答えられました。まさにエルサレムの神殿はイエスさまにとって神の家、自分のお父さんのところだったのです（ルカ 2：49）。

深い祈りと平安の場所。神への真実、真心を共にする場所。ここで自分も人々も清められ、神の祝福に満たされ、神の慰めと励ましと導きを受ける、かけがえのない大切な場所。それが神殿です。

さて今日、12歳の時からおよそ20年たって、同じ過越祭の礼拝のために、イエスは弟子たちと一緒にエルサレムに上り、神殿の境内に入って来られました。その時、イエスの目に映ったのは、あるまじき光景でした。祈りの空気がまったくない。あるのは喧噪と、人々の欲望の渦巻きです。神を崇めるのではなく、神を利用して自分の誉れ、自分の権威、自分の利益を増大させようとする人たちがそこを支配していました。

祈るために来た人、神の救いを求めて来た人たちには落ち着く場所がない。イエスのうちに悲しみが溢れ、憤りが燃え上がりました。ここは神の家、祈りの家なのです。神と人が出会い交流する場所なのです。それを回復しなければならない。

イエスは乱暴な振る舞いをして、境内から商売している人々を追放されました。

その振る舞いを見ていたイエスの弟子たちは、聖書の言葉を思い出しました。

**「あなたの家を思う熱意がわたしを食い尽くす」詩編 69 : 10**

「あなた」とは神のことです。神の家を思う熱意が燃えて、自分を食い尽くす。イエスのうちに神の家を愛する情熱が燃えて、イエスは自分を焼き滅ぼしてしまわれる。弟子たちもイエスの情熱に感染します。同時に、イエスのこの振る舞いによって危険が生じないかと心配です。

たちまちイエスは人々に取り囲まれました。

**「あなたは、こんなことをするからには、どんなしるしをわたしたちに見せるつもりか」ヨハネ 2 : 18**

お前が正しいという証拠、自分が神から来ているという目に見える証拠を示せ、というのです。

**「イエスは答えて言われた。『この神殿を壊してみよ。三日で建て直してみせる。』**

それでユダヤ人たちは、『この神殿は建てるのに四十六年もかかったのに、あなたは三日で建て直すのか』と言った。

イエスの言われる神殿とは、御自分の体のことだったのである。」  
**ヨハネ 2:19-21**

これがヨハネ福音書のわかりにくさであり、また魅力です。

**「この神殿を壊してみよ」**

これはもっと普通に訳すと

**「この神殿を壊せ」**

目の前のエルサレム神殿を壊せ、とイエスが言っていると人々は聞いたでしょう。イエスに対する憤りと憎しみが人々に湧き上がっています。

けれども実は、イエスは「この神殿」と言われたとき、ご自分の体のことを言っておられたのです。

もうこのエルサレム神殿は、神と人々を結び合わせ、交流させる場所ではなく、神と人々を遮断するものになってしまっている。目に見えるこの神殿ではなくて、神と人が出会い交流する本当の神殿、神と人を結びつける真の神殿。それがなくてはならない。

人は神の家に逃れたい。しかし逃れる場所が失われているなら、わたしに逃れなさい。わたしが神の家となり、わたしが神殿になる。

よく考えて発言したというより、瞬間的にイエスのご自分がその存在であることをはっきり知って、そう言われたのではないのでしょうか。

今は何のことか人にはわからない。しかしイエスは、神と人を結びつけるために自分の体を献げられる。イエスをとおして人は神と出会い、イエスをとおして神は人に出会われる。イエスの存在がわたしたちを神に招き、神に触れさせる。イエスの体がわたしたちに提供されて、わたしたちは神を経験する。

こう訳しましょう。

「イエスは答えて言われた。『この神殿を壊せ。三日でそれをよみがえらせる。』」

この神殿とはイエスの体のことです。わたしの体を壊せ。三日でわたしはそれをよみがえらせる。

イエスは、やがて来たるべきご自分の死と復活のことを言われたのです。自分が死んでよみがえって、わたしが皆のために神殿となろう。わたしがみずから、みんなの祈りの場所となり、わたしみずから神の家となり、神の存在といのちをわたしが皆に提供しよう。

「わたしを滅ぼせ」「わたしを打ち砕け」

わたしがこの世の罪と人の滅びを引き受けて死ぬ。

そして三日目によみがえって人々に新しいいのちを与える。

こうしてわたしみずからが皆のために神の家となろう。

「この神殿を壊せ。三日でそれをよみがえらせる。」

エルサレムの神殿の境内で、神のためではなく、自分の権威と欲のために商売をしているのは、あるいはわたしかもかもしれません。神のもとに来ているはずなのに、神のことを思わず、人と自分のことを絶えず気にしているのはわたしたちのことかもしれません。イエスにはわたしたちの心が見えるのです。

しかしこのわたしたちのためにイエスは自分を献げて、自分の体を砕いて、わたしたちに神の愛のいのちを味わわせようとされます。

神殿の境内から追い出した人々をも、十字架のイエスが招かれます。

十字架のイエスに招かれてわたしたちが主のそばにきたとき、わたしたちは清められて新しくされます。

祈りましょう。

主イエス・キリストよ、あなたは神の家を思う熱意によってご自身を焼きつくされました。あなたは死んでよみがえって、わたしたちのためにみずから神殿、神の家となってくださいました。神のことを思わず人のことを思っているわたしたちの心と生活を清めてください。あなたのもとに逃れさせ、あなたから神の言葉と命を得させてください。あなたの十字架の死と復活のうちに、古いわたしたちの滅びと新しいわたしたちの命が用意されています。アーメン